

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1197-1205	日本赤十字血液センターに保管されている1997-2004年の反復供血者の全供血の選及調査を行い、ID-NATのみのHBV陽性である血液由来の血液製剤の輸血によるHBV伝播リスクを検討した。HBV ID-NATを実施したHBV転換供血者の保管血液15,721本中158検体(1.01%)が陽性であった。スクリーニングをすり抜けたHBs抗体価の低いオカルトHBVキャリア由来の血液製剤を原因とするHBV感染リスクは、HBsAg発現前やMP-NATウインドウ期の供血による伝播リスクよりも10倍以上低い。
												B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1162-1171	日本赤十字のスクリーニングシステムでHBsAg及び抗B型肝炎コア抗原抗体が陰性であったHBV DNA陽性供血者28名において急性HBV感染におけるウイルスマーカーの動態を調べた。検出可能期間の中央値は、HBV DNAが個別NATで74日、MP NATで50日、HBsAgが42日であった。28名中6名は変異型ウイルスに感染し、うち3名ではHBsAgが検出できなかった。HBV NATは、MPで行ったとしても、HBsAg検査よりも効果的で、HBsAgウインドウ期前後の感染供血者を排除することができる。
												E型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 734-742	日本におけるアラニアミトランスフェラーゼ(ALT)高値供血者の無症候性E型肝炎感染の現況を調べた。日本赤十字血液センターでALT高値(81-476 IU/L)の献血者6700名の血清検体を検査したところ、479名(7.1%)の供血者が抗HEV IgG陽性であった。ALT ≥ 201 IU/L群はHEV RNA有病率が有意に高かった。ウイルス血症を発症した供血者9名から得られたHEV分離ウイルスは遺伝子型3に分類された。ALT ≥ 201 IU/Lの日本人の約3%はHEV株の無症候性感染を有することが示された。
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P203	2005年1月-2006年4月に北海道で献血者のHEV-RNAスクリーニングを行った。388,119名のうち、男性33名(1/7,120)、女性22名(1/6,962)がHEV-RNA陽性で、g enotype 3が優勢であった。55名中40名は献血時のHEV抗体陰性であり、後に陽性となった。HEV陽性者にはALT値が上昇した人もいたが自覚症状はなかった。HEV-RNAは献血後、最長37日間検出された。HEV陽性献血者由来の輸血を受けた患者7名のうち、少なくとも2名が感染した。